

| | | |
|----|----|----|
| 23 | 23 | 16 |
| 23 | 23 | 16 |

葛切寺

南川周二

40

美術鑑賞演習という科目名の大学の古美術研修旅行の初期のころの話である。いまからもう二十年近く前になる。そのころは私のほかに美術の先生一人、助手も二人というたてまえで、四人分の旅費も出た。その年の春の古美研には油画のS教授が同行した。奈良半日、京都半日の自由時間はあるが、奈良の方は東大寺三月堂・戒壇院、興福寺国宝館の三つを義務づけていて、本当に自由になるのは午後二時半を過ぎる。京都の自由時間は五日目でもあるし、私は学生たちにいつも言う。「セッかく古美研で京都に来たんだから、お寺の一番、二つは廻ってほしいけれど、あとは食べ歩きをしても、ホテルに帰って部屋でゴロンとしても自由です。疲れただらう？」

もうお寺を二十近く廻っている。それでも学生たちは、やはり授業とと思うのか「詩仙堂と永観堂に行つて来ました」「南禅寺をゆつくり観て来ました」などと、ホテルでのミーティング前に何人も報告する。みな、古美研のコースにはいっていない寺々である。

「さあ」とS教授が言った、「どこへ行くかた」「先生」と、H助手が、学生たちから開放されて京都の街なかの喫茶店に落ち着い